

嘉麻市部活動の在り方検討委員会としての「部活動地域展開」の方向性

1 本市の部活動の現状・課題

＜生徒数の減少の視点から＞

- 令和8年度、嘉麻市5校における部活動数は、延べ45（運動部36、文化部9）である。
- その中で入部率は、嘉麻市として62.4％（運動部49.6％、文化部12.8％）である。
- 大会出場登録人数に満たない、あるいは活動活性化のために他校と合同チーム編成や合同部活動を希望している部は5部もある。
- 休日は、大会出場登録人数に満たないチーム同士で合同部活動を行っている。

＜教職員の負担の視点から＞

- 自分の専門種目でない部活動を指導する際に不安感がある。
- 休日の部活動に費やしている時間は平均で17.4時間（月超過勤務時間45時間の38.7％）
- 外部指導者は3名存在するが、身分保障が十分ではないため、顧問立ち会いの下でしか指導ができない。したがって、部活動のための休日出勤から教員を解放できない。

※ 学校単独としての部活動が成立しない、できない部活動が増えてきている状況

※ 生徒が自分の希望する部活動に入部できない状況

※ 教職員についても、働き方改革を十分進めきれない状況

2 課題を踏まえた嘉麻市の「部活動地域展開」の目的と方向性

◎ 嘉麻市としての部活動「地域移行・地域展開」をしていく目的（理由）は、次の2点である。

- 将来にわたり、生徒がスポーツや文化芸術活動に継続して親しむ機会を確保するため
- 学校における働き方改革を推進するため

↓ そのために

◇ 嘉麻市内での拠点校部活動の実施

※ 令和10年度までに完全休日拠点校部活動、令和13年度までに完全平日拠点校部活動

◇ 認定地域クラブへの移行及び立ち上げ

◇ 稲築志耕館高校との連携

※ 地域展開の地域とは

・場 所：学校施設（拠点校施設）、嘉麻市施設、高校等

・指導者：地域人材（部活動指導員やボランティア指導者等）

部活動を希望する教員（拠点校部活動顧問）

・運営主体：従来の学校主体 → 自治体主体または地域クラブ主体

・費用等：教職員の手当：県費 → 市費等 → 参加者からの負担

外部指導者（部活動指導員）報酬：市費 → 参加者からの負担

運営費：市費 → 参加者からの負担

※ 実質的な主導はどこになるのか？

・拠点校部活動については自治体主導、つまり教育委員会

3 今後の計画

- まず各校各部の要望に応えるために、身分保障があり、単独指導が可能な部活動指導員の確保をめざす。そのために、予算確保と人材確保に向けて取り組む。
- 拠点校部活動を推進し、令和10年度の休日部活動の完全地域移行（拠点校部活動への移行）を目指す。また令和11年度からは平日の完全地域移行もめざし、令和13年度までには完結する計画で進める。
- 令和8年度の取組は以下の通りである。
 - 本年度4月より、拠点校部活動を実施している。
 - 現状：稲築東義務教育学校サッカー部へ 山田中学校から2名
 - ：嘉穂中学校男子バレーボール部へ 稲築西義務教育学校から1名
 - 稲築東義務教育学校から1名
 - 本年度4月より、「部活動指導員（新規）」を1名配置（剣道）した。
 - 文化部部活動の地域展開として、織田廣喜美術館を拠点とした「嘉麻市美術部（仮）」を発足させる予定である。
 - 拠点校部活動を推進し、生徒たちの部活動選択肢拡大と休日指導を望まない教員の解放に努める。
 - 中学校・義務教育学校後期課程の生徒と現存する社会体育サークルとの連携によって、生徒の活動機会と部活動指導を担う地域人材の発掘に努める。
 - 将来的な地域展開の姿としての「地域認定クラブ」について、ルール作りと発信を行う。

4 生徒・保護者・教職員の環境変化

（1）生徒に与える環境

- 専門的に指導できる地域指導者（部活動指導員）から指導を受けられる
- 切磋琢磨できる仲間、幅広く交流できる仲間ができる
- 優先的に使用できる施設と用具を使用することができる
- チームとして試合や大会に出場する機会が増える
- 移動に時間がかかる場合がある・安全面の配慮

（2）考えられる保護者負担

- 活動場所への送り迎えの負担
- 拠点校部活動が続く間は現在の部活動と同等の負担であるが、地域クラブへと変化していった場合（教職員の休日部活動特殊勤務手当）が打ち切られた場合、自治体が指導者報酬等を補填しなければ受益者負担が求められることが予測される。

（3）考えられる教職員の負担軽減

- 部活動を希望しない教員が休日部活動指導や大会引率の負担から解放される
- 自己の経験値や指導力に見合わない期待や要求から解放される

※ 学校、教育からの切り離しではなく、これまで大切にしてきた「よき選手の前に、よき生徒であれ」という部活動を通した人格形成を大切にしつつ、「生徒の活動の確保」と「教職員の働き方改革」の目的を達成させることができるよう、嘉麻市の実態にあった部活動の地域展開を推進していく。